

2023 vol.209 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

～「存在」の発信を喜びとする手工芸の風～

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 井上 美沙子



季語は中秋である台風が昨今は春から猛威を振るう。今夏、台風6号・7号は沖縄、九州、近畿に大きな爪痕を残し、今も北陸側の日本海を進行し日本列島に大きな影響を与えている。また、地球レベルでの氷河の解凍や熱波による水害・山火事が国際ニュースとなり、地球温暖化や環境破壊等がその要因と言える。人が「富や領土」を求めることの恐ろしさを、千古の神話や伝説が繰り返し象徴的に語る「所有」欲が「存在」を脅かすという警告が顕になっているように思える。

本作家連合会の第56回創作手工芸展も台風の進路によっては参観者に影響するか、という心配は、会期中の2日くらいですみ、無事約2,600名という例年の約2割増しの入場者数に恵まれたことは誠に幸運なことであった。この公募展の好調は会員の皆様のご支援・ご協力の賜物であることに深く感謝する次第である。そしてまた、本年は読売新聞がこの展覧会の記事を広報してくれたことも一因であったといえる。

全国紙の強みで、地方の興味のある方々が、上京の際に本展覧会の鑑賞を予定に入れ、実際に足を運んでくれたという嬉しい報告もあった。紙面には支部・教室作品の展示や会員の作品のチャリティーバザー、佐賀錦の特別展示、日本画家の大家・大矢紀審査委員長の文部科学大臣賞等の入選講評を含むギャラリートークの開催などが紹介されていた。実際、去年のトークに啓発され、本年の入選に繋がったと感謝の喜びを述べた方の存在は、様々な刺激に満ちた展示会であることの証左となっている。

大矢氏や著名な審査員による本年の審査の感想には、年々応募作品の質の向上が見受けられること、また外部の方の関心の高さが応募に反映している、との評があった。これを、手工芸の地道な作業の献身により、自らの「存在」の発信を喜びとする風が少しずつ吹きはじめた世情の良い兆候の現れと捉えたい。その意味でも、世の中を明るく照らす光の存続に向けた会員一人一人の文化活動が、個人の心の再生をうながしている手工芸作家連合会の意義と、その貢献にこれからも皆様と共に尽くしていく所存である。

最後に、理事として長く重責を担って頂いていた三和正明氏が退任なさることとなった。創作展表彰式での三和氏の名司会はこののち心に残ることであろう。今後も、本作家連合会の活動を見守って頂くことを願い、ご厚恩に深く感謝申しあげる。



審査委員長
大矢 紀
(日本美術院同人)

今年とは異常な暑さにより世界的にも乾燥による火災が各地でおこり本当に困ったものである。またコロナも報道に表れないかなりの数が一時より多くなって来た様に思われ心配である。そんな大変な中第56回創作手工芸展が盛会のうちに終了した事は大変喜ばしいことである。こぎん刺し、服飾造形、キルト、フラワーデザイン等幅広いジャンルに作品が出品されたことにまずもって会の発展の為にありがたい事である。扱って受賞作品から順を追ってみる

●文部科学大臣賞「黄昏時を待つ」田村まゆみ

中央に向かうオレンジ色のグラデーションと鮮烈な赤の稜線。夕暮れ時の空の変化と残照の輝きが印象的に力強く表現された。こぎん刺しの伝統である濃紺の布に白糸で刺し縫いする細やかな幾何学模様を布面一杯に展開しながら、そこに色彩を加えて従来のこぎん刺しにない華やぎの演出に成功している。作品となった題名は作者自身の心象風景でもあるのだろうか。

日本女子大学名誉教授

公財) ポーラ伝統文化振興財団理事 小笠原 小枝

●東京都議会議長賞「糸と紙の天使たち」瀬川由利子

作品群を見ていると身に付けた確かな技法を用いて、楽しみながら制作していることが分かる。何を作るかはモノづくりの出発点である。糸である線から平面に展開し、平面から立体へ発展させる。線、面、立体への自由な変換こそ、創作技法の基礎である。瀬川さんは身の周りにある生活用品の中から創作のヒントを見つけ、身に付けた技法で作品に結晶させている。その姿勢の密度を高めることで、これからの創作手工芸の発展の手掛かりになると確信する。

共立女子大学名誉教授 伊藤 紀之

●大妻コタカ賞 「光芒」 浜島亜由子

現代建築の壁面を飾る津軽こぎん刺しで制作された壁掛けです。明解で大胆な幾何学模様の中に厳密な伝統文様を巧みに組み合わせ、澁みなく整然と確りとした技術とデザインで画面全体から凄みを感じます。光の筋として、斜めに入った刺しの文様に銀糸の煌めきが木綿糸を更に引き立たせ、グラデーションと共に画面

に変化を与えています。

芸術的で上品に纏められた力作です。

香川県漆芸研究所・石川県立輪島漆芸技術研修所講師
漆芸作家 田口 義明

●日本手工芸作家連合会会長賞

「デルフト柄 ダイニングテーブル」内藤恵子

青色を特徴とするデルフト焼きの白地に、その美しい青と多彩な彩りを添えてタイルトップダイニングテーブルに仕上げたこの作品は、周囲に光彩を放つ。伝統的な絵柄の花々とそれを取り巻く繊細な葉や蝶、小さな虫たちが祝宴を寿ぐ。庭の鳥を象徴する雉や家禽が下方に配され、屋内で食卓を囲みながら中庭の賑わいが見てとれる。食の豊かさを想像できる巧みな工夫がされている。小紋柄を配し日本の住空間にも調和する配慮がある。

公財) 日本手工芸作家連合会 会長 井上 美沙子

●審査委員長賞「花づくし」有賀萬里子

題名の花づくしにある様に、横に5輪、縦に6輪、計30輪のいとりどりの愛すべき可憐な花がそれぞれに私はここに居るわとそれだけで重くなく爽やかである。そして花と花の間に赤い小さな花を配し工夫している。全体的に淡い緑色がキルトとして大ぶりで見栄えもし、立派である。

公財) 日本美術院同人

公財) 川崎市文化財団理事 大矢 紀

奨励賞 「月光に照らされて」シャドーボックス 大木美津江

赤と黒と金の取り合わせで非常に繊細な中に重さを感じる。佳作「春の息吹き」津軽こぎん刺し 祖父江正子 非常に明るい色調の作品でリラックスなグラデーションを使って軽やかな感を出す。欲を言うとバックは白のこぎん刺しにしたらなをスッキリしたかも? 佳作「春卵漫」エッグアート 林千秋 卵を本当にうまく魅力的に使っている。【平和「地球に花咲け夢も咲け」】手描友禅 猪股洋子 色とりどりのバラを愛情込めて「晩秋」絵キルト 佐藤好子 牧歌的な晩秋をと、三人三様の持ち味を出している。技術賞に付いては他の追従をゆるさない、高度な技術である。池田節子「春宵」(染織) 手塚慶子「雪の小路」(ハーダンガー刺繍) 佐久間恭子【Universal harmonyⅢ(自然界・万物の調和)】(染織) 黒澤勝子「出会い(手織布)」(こぎん刺し) 福田桜「夏休み」(クロスステッチ) それぞれ永年培って来た技術を色彩も豊かに格の高さを示す。

新人賞 三神智子 小泉智美 石川由利子 中村禮子 加藤育代の5名であるが5人全員がそれぞれ違う技法での参戦で誠に持って素晴らしい事である。今後共自分をつらぬき通してほしいものである。

以上各受賞作品であるが入選者を含め、一般の人々の技術向上には目をみはるものがある。受賞の上位5名のうち4人が一般人とは只々びっくりし大あっぱれである。次年度に向けてもう挑戦ははじまっている。お互いに気持ちを持ちを新たに、頑張ろう!

第56回創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞
【黄昏を待つ】
(津軽こぎん刺し)
田村 まゆみ

この度は文部科学大臣賞に選出いただき大変光栄に存じます。「黄昏を待つ」は、変化していく夕空の美しさと焦燥感と光を作品にしました。津軽こぎん刺しの伝統的な模様のみで構成することにこだわり、糸は現代の多彩な繡糸でグラデーションを作りました。津軽こぎん刺し作品を、高く評価していただき励みになりました。伝統模様を大切にして今後も精進してまいります。有難うございました。



大妻コタカ賞
【光芒】
(津軽こぎん刺し)
浜島 亜由子



審査委員長賞
【花づくし】
(クレイジーキルト)
有賀 萬里子



東京都議会議長賞
【糸と紙の天使たち】
(ポピンレース パーチメント)
瀬川 由利子

日本手工芸作家連合会会長賞
【デルフト柄 ダイニングテーブル板】
(デルフト焼 タイル画)
内藤 恵子



奨励賞
【月光に照らされて】
(シャドーボックス)
大木 美津江

第56回創作手工芸展 受賞作品



佳作
【春の息吹】
(津軽こぎん刺し)
祖父江 正子



佳作
【春卵漫】
(エッグアート)
林 千秋



佳作
【平和【地球に花咲け 夢も咲け】】
(手描友禅)
猪股 洋子



佳作
【晩秋】
(絵キルト)
佐藤 好子



新人賞
【お月見うさぎ】
(ちりめん細工)
石川 由利子



新人賞
【Brillante (輝かしく)】
(アメリカンフラワー ディップアート)
三神 智子



新人賞
【未来へ託す想い】
(南部菱刺し)
中村 禮子



新人賞
【「初音」源氏物語より】
(ポタリーペインティング)
小泉 智美



新人賞
【花の調べ】
(フラワーデザイン シェーネアルバイテン)
加藤 育代

●第56回創作手工芸展の開催並びに授賞式のご報告

第56回創作手工芸展は、2023年5月29日(月)～6月4日(日)までの会期で、東京都美術館を展示会場として無事開催の運びとなりました。

新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きを見せはじめ、少しずつ日常を取り戻しつつある中、今年は読売新聞の暮らしのページに「日本の手工芸の発展や継承を目指して開かれる公募展」開催、と紹介されたこともあり、昨年を上回る約2,600名の皆様にご来場いただきました。上階ではマティス展が開催されており、東京都美術館を訪れていた方々に交じり、外国人の旅行者の来場も多数あり、当連合会の展示作品に興味深くご覧になっていたのが印象的でした。

今年は全国より公募で寄せられた応募作品の中から入賞・入選作品並びに特別展示作品を合わせて総数93点を展覧致しました。例年に比べ一般の方の応募が多く、また初出品者が21名を数えました。種目別でこぎん刺し、日本刺繍、英国刺繍、服飾造形、ボビンレース、染織や手描友禅、フラワーデザイン、キルト作品等も出品され、幅広いジャンルの手工芸作品が寄せられました。招待作品(佐賀錦のバッグと額)の他、今年は初の試みとして、特別企画展として支部・教室の紹介と作品展示を行いました。

会期最終日の前日6月3日(土) 午前11時より、上野精養軒において令和5年度の修了証・免状授与式ならびに第56回創作手工芸展受賞者表彰式が行われました。入選、特別賞、新人賞、技術賞、佳作、奨励賞に続き、審査委員長賞、日本手工芸作家連合会会長賞、大妻コタカ賞、東京都議会議長賞、文部科学大臣賞の各賞の受賞者・作品名が発表され、表彰状と記念品の授与が行われました。その後、審査講評を井上美沙子会長から、また、ご来賓を代表してディー・エム・シー(株)小山田光晴社長様からご祝辞をいただき、最後に受賞者を代表して田村まゆみ様からお礼と感謝の言葉が述べられ、授賞式は滞りなく終了いたしました。



表彰式



ギャラリートーク



会場風景

●招待作品展示

佐賀錦作家 小林美佐子

第56回創作手工芸展の招待作品展示に出品する機会をいただき、佐賀錦を発表できたのはとても喜ばしいことでした。

織り手人口の減少や高齢化、そして若い後継者の不在が、徐々に廃れ行く伝統工芸となりゆく現況が残念です。

フォーマルシーンでのバッグは布製が基本です。そのような決まり事を守ったうえで、新しい感覚の佐賀錦バッグ(和装と洋装の兼用)を目指しております。バッグの袋物用飾り金具は、金具職人が1ヶ月を要して制作しております。現代的に工夫をこらし、スワロフスキーを嵌め込んだり、透し彫りの技法を用いたものもあります。

今でも昔ながらの手法で一つ一つ手織りの技術での工芸「佐賀錦」を一人でも多くの方に知っていただく為に、日々努力し邁進していきたいと思っております。



佐賀錦作品

●支部・教室作品展示



美しい花の手仕事
リビエールのフラワーデザインをご紹介します
リビエール教室 片山理恵子

特別企画展に参加して 「スモッキング刺繍」
松濤支部 松本志津美



第56回創作手工芸展「特別企画展」に於いて、リビエール教室のフラワーデザインを「美しい花の手仕事」として

「シェーネアルバイテン」に特化して紹介しました。この企画は連合会でも初の試みであり、エントリー後準備期間も短いものでしたが、教室中が集中して多くのことを学ぶ貴重な経験を積むことができました。

設立当初からリビエールは「フラワーデザイン」の技術で植物という自然素材を使ってデザインしてきました。やがてその材料が美しい純金銀線に拡張しヨーロッパの花文化と融合した結果、シェーネアルバイテンが生まれました。そこにあるのは日々の暮らしで植物を美しくデザインしたいという思いです。フラワーデザインの技術を基本にしていることに変わりはありません。

今回の展示作品は普段教室で手掛けているものです。基本技術からデザインを研究する者まで、美術館でどのように作品を取りまとめ展示するか、最も思案したところです。展示する作品は制作者の思いが見る方にも届くものであってほしいと思います。今回の経験を積んで、教室では改めて技術を修練する目的を再認識しました。その結果新たに作品を創って発表してみたいという意欲が芽生えてきました。登録教室を預かる者として、このような機会を日本手工芸作家連合会が与えてくださったことに心から感謝しております。



松濤支部は日本手工芸作家連合会との繋がりが前支部長入会后、支部発足から48年となります。この度は特別企画展に参加させていただき、とても有意義なものとなりました。この企画展では日々の活動を垣間見ることができ、貴重な学びの場となりました。

今回の展示に際し、松濤支部会員の作品を大勢の方々にご覧いただけました事、会員一同感謝申し上げます。

松濤支部では北欧発祥のスモッキング刺繍の魅力を紹介させて頂きました。布と糸の色合わせ・一針一針心地よいリズムをさざみながら表情豊かな「ひだ山」が生み出されていく変化を楽しむ、暮らしの中で自分と向き合える大切な時間です。今回の作品はどこか懐かしい作品、アートを意識しつつも温かみのある作品の集合となりました。今後も「創作手工芸展」に向けて新しい作品の制作をチャレンジしていきたいと思ひます。

世界には世代を超えて継承されてきた種々の「手仕事」があり、楽しさ・大切さが後世に繋がる事を願ひます。

貴重な機会を頂き深く感謝申し上げます。

●手工芸の魅力を知るまで I

公益財団法人日本手工芸作家連合会 創作手工芸展審査員
(共立女子大学名誉教授)

伊藤紀之



大学を卒業後、家電メーカーで製品デザインを経験した。その後、同業他社から照明デザインの依頼を受けた。照明は未経験であったが、照明器具というより自由な空間発想が提案できた。その際、照明の個展(図1)を開いた事がある。新聞や雑誌でも紹介された。美術評論家の日向あき子は雑誌「コマーシャル・フォト」(1978年7月)美術欄に「都市化時代の中の大衆社会」の中で木村利三郎、堂本尚郎の作品と共に取り上げられた。「ハーフミラーを使って3本の柱をつくり、その中に光の反射を内蔵した伊藤紀之の作品は都市のシンボルでもある光(エネルギー)への賛辞だ。アクリル製の造形物のなかに直接光源を入れた'60年代の光・アートとちがいで、彼の作品には、いっそう神秘化された都市空間へのオマージュがあるように思われた」とあった。後に画廊主は「あの個展は早すぎましたね」と語った。当時、まだ都市空間の照明デザインに関心は薄かった。私にとって初めてアート作品制作を体験した。

その頃、家政学部被服学科からデザイン教育の依頼を受けた。被服の専門知識は全くなかったが、分野を問わずデザインの基礎は共通すると考えた。そして「計画としてのデザイン」を中心に、試行錯誤しながら学生と共に考えていくことにした。その過程で、私が全く知らなかったことで新鮮に感じた「キルト」に出会った。

高校の英語のテキストにキルトに関する記憶があった。「少年が丘に登り、美しい景観をパッチワークキルトのようだ」という記述があった。当時の辞書にパッチワークキルトは「つぎはぎの布」とあった。つぎはぎからボロ布が連想され、文章の意味が分からなかった。

ある時、米国でキルトを収集してきた女性に出会った。そのアンティークキルト(図2)をみて20世紀中頃から始まる現代美術「オブ・アート」を思わせる表現に驚いた。そのコレクションを教育研究資料として譲り受けた。同時にキルトの関連文献を出来るだけ集めた。技法書が多かったが、興味深い文化史の資料もあった。

19世紀末に欧米で流行したジャパニーズキルトがあった。葛飾北斎の弟子、載斗の『萬職図考』にある水梅文(図3)の影響で、クレイジーキルトとも呼ばれていた。キルトの関心が高まるにつれて、各種キルト展の解説、NHKの特集番組「世界手工芸紀行」や「趣味悠々」のキルト番組に出演した。

私は産業界の製品デザインから出発し、教育にたずさわることになり、新しい分野を知り、人間生活にとって身近な存在である手工芸の質、魅力こそ大切であることを次第に認識するようになった。



図1 照明の個展



図2 アンティークキルト



図3 水梅文

【略歴】1940年東京都生まれ 千葉大学工学部工業意匠学科卒 同大学院工学研究科修士課程修了 (株)東芝勤務 1973年共立女子大学家政学部被服学科専任講師、助教授を経て教授、同大学院家政学研究科博士後期課程で「生活デザイン研究」指導教授 2011年名誉教授 現在、国際浮世絵学会理事、東光会正会員。
主著：共著『アメリカン・アンティーク・キルトコレクション』日本ヴォーグ社1992、共著『アメリカンキルトものがたり』日本放送出版協会2001、単著「アンティーク・キルト—キルトにみる東西染織文化の比較」国際アート2006、等。

●「助教授資格」免状を取得して

英国刺繍教室 福留 理恵子



免状を取得して

この度は助教授の免状を頂きありがとうございます。
約20年にわたるロンドン生活を終え帰国した2017年に英国刺繍の作品を
出展させていただいて以来、本会の皆様には大変お世話になり、またこの
ような免状もいただきたいへん光栄に思っております。

イギリス滞在中は刺繍以外にもアンティーク、アップホルストリー、ソ
フトファーマニッシング等を楽しく習い私の人生を豊かなものにしてしてくれま
した。なかでも王立刺繍学校で習った英国刺繍は奥が深くこの楽しみを多く
の人に体験してもらいたいとの思いから英国刺繍の教室を20年前にロン

ドンで始めました。帰国した現在も英国刺繍という手工芸を楽しく学んでいただきたいと思います
教室を続けています。

●活動報告・作品展のご案内

*梅支部 パッチワーク・刺繍 他 福岡県

第28回 創作手工芸 梅支部展 会期：2023年10月24日～29日

会場：NHK福岡放送センタービル・NHKギャラリー2階

第27回手作りフェアin九州 会期：2024年2月17・18日 会場：福岡国際センター



梅支部 DM

*原田教室 原田泰子 ハーダンガー刺繍 広島県

第16回やくし作品展 会期：2022年11月6日～13日 会場：薬師が丘第一集会所ホール

*土門教室 土門玲子 (LLP 遊佐刺し子ギルド 代表) 山形県



遊佐刺し子
講習風景



遊佐刺し子
講習風景

海外からの研修受入れと海外交流

- ・2023年11月4日 オーストラリア bebe bold の Jane Macdonld をリーダーに世界各国から日本手工芸の体験のために訪問する方々が遊佐刺し子の体験に訪問します。オーストラリア14名、カナダ2名、イギリス1名、アメリカ3名、ドイツ1名、日本1名、今回 SUSAN 夫妻2名も参加され、合計23名がおいでになります。
- ・2024年6月 遊佐刺し子がイギリス ロンドンでの展示会に招待される。遊佐刺し子の作品展示と体験を予定。

*リビエール教室 シェーネアルバイテン (フラワー) 東京都

「フラワーデザイン・リビエールの世界」：YouTube 継続配信

公開講座 春：2023年4月15日 母の日プレゼント：ミュシャのユリブローチ

秋・冬：クリスマス・お正月作品の予定 (募集30名の内 当日15名 通信講座15名)



ホームページ YouTube Instagram

*アトリエ・Reo アート教室 石田則子 シャドーボックス 千葉県

シャドー作品展示 会期：2023年4月1日～5月30日

会場：順天堂東京高等高齢者医療センター

シャドー作品展示 会期：2023年10月28・29日

会場：市川市東部公民館



シャドーボックス作品制作風景

*内藤恵子 デルフト焼き 東京都

(生活工房 Madre- マードレー大塚昌子主催)

ポタリーペインティング作品展出展

会期：2022年11月24日～29日

会場：東京都国立市中 コートギャラリー国立



ポタリーペインティング
作品展 DM



展示風景

会員だより・お知らせ

*松岡たか子 ポビンレース 東京都
日本フランス現代美術世界展・推薦出展 会期：2023年8月

*三浦かすみ・深谷由美子 スモッキング刺繍 東京都
2人の小さなスモッキング刺繍展
会期：2023年3月10・11日
会場：目白 GALLERY 赤い鳥



スモッキング刺繍 作品展 DM



会場風景

*福田桜 シャドーボックス 神奈川県
出展：会期2024年1月25～2月3日
会場：国立新美術館

*有賀萬里子 クレイジーキルト 東京都
作品展 クレイジーキルト「花づくし」
会期：2023年6月19日～24日
会場：銀座ギャラリームサシ



クレイジーキルト 会場風景



作品展 DM

*富澤千尋 ポビンレース 北海道
S&L ポビンレース展 2023 水のきらめき ハートのささやき
会期：2023年9月26日～10月1日
会場：札幌市資料館 ギャラリー



ポビンレース 作品展 DM

*加藤理香 ハーダンガー刺繍 北海道
ハーダンガー作品展出展 会期：2023年10月～11月
会場：札幌・小樽の予定

●チャリティバザーの報告

第56回創作手工芸展チャリティバザー（東京都美術館）も盛況に終了致しました。売上金の一部を、トルコ地震被災地・当連合会に寄附いたしました。ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

●チャリティバザー販売品のご寄附のお願い

ご家庭でお手持ちの手作り品や材料（生地、糸、毛糸、他）等がございましたら、ご寄附下さいますようお願いいたします。販売品は当連合会主催の展覧会や展示会で販売し被災地等へ寄附いたします。販売品の発送は下記まで

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6-10 MOビル407号

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-51410（月・水・金曜日）

締め切り 2024年3月末日まで（発送は随時承ります）

●第4回作品展示チャリティ販売会のお知らせ 会場：京橋 手芸の越前屋8F

日時：2024年1月13日（土）午前11時～16時、14日（日）午前11時～13時

当連合会では昨年に引き続き第4回新春「作品展示チャリティ即売会」を開催いたします。このチャリティ即売会は作家所蔵の織物・アクセサリ・刺繍・刺し子などの小作品が出品されます。お買い求めやすい価格で販売致しますので、多くの皆様にご来場並びにご協力をいただきたくご案内いたします。なお、売り上げの一部を災害地等に寄附させていただきます。

●講習会

公益財団法人日本手工芸作家連合会の1日講習会は、会員の皆様や一般の手工芸愛好家の方々へ、「一日で学ぶ」手工芸の伝統的な技法や新しい分野の挑戦など、毎回、趣向を凝らした内容で初心者から上級者まで、楽しく、気楽に習得できる講習会を毎月第2土曜日に（年10回）開催しております。

場所：京橋 手芸の越前屋ビルF 8、浅草橋 クロバー（株）

*2022年4月～2023年3月 講習会（第9回 ベレー帽子は中止）



クロバー（株）第8回タッセル付きピンククッション
講習会作品と制作風景



手芸の越前屋 第10回カルトナーージュ講習会作品と
制作風景

第5回	R4年10月8日	内田桃子	ブラックワークのブローチ
第6回	R4年11月12日	佐久間恭子	木の実もりもり Xmas リース！
第7回	R4年12月10日	池田節子	ワンポイントフラワーの正月飾り
第8回	R5年1月24日	内田桃子	タッセル付きピンククッション
第10回	R5年3月11日	神山康子	カルトナーージュ ファイルBOX

*2023年4月～2024年3月 講習会ご案内・予定

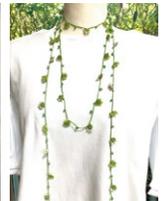
- 第1回 R5年4月8日 松本志津美
人気のカナディアンスマッキングでリネンポーチ
- 第2回 R5年6月10日 深谷由美子
リネンのハンカチにあしらうリボン刺繍&イニシャル
- 第3回 R5年7月8日 小俣葉子
レース糸&ビーズで編む素敵なラリエットネックレス
- 第4回 R5年9月9日 石田則子
福を呼ぶ・カードで作るシャドーボックス
- 第5回 R5年10月14日 佐久間恭子
ビーズ&金属線で織るアクセサリ
- 第6回 R5年11月11日 木村則子
手紡ぎ布とビーズのブローチ



第1回



第2回



第3回

- 第7回 R5年12月9日 池田節子
矢羽根と自然素材で作る正月飾り
- 第8回 R6年1月23日 松本志津美 クロバー（予定）
templateを使った簡単スマッキング
- 第9回 R6年2月10日 内藤恵子
ポタリーペインティング カップ&ソーサー
- 第10回 R6年3月9日 神山康子
カルトナーージュ ファイルBOX



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回

●(公募) 第57回創作手工芸展のご案内

【会 期】 令和6年5月29日(水)～6月4日(火) (3日(月) 休館日)

【会 場】 東京都美術館 ギャラリーC

【応募期間】 令和6年2月14日(水)～5月8日(水)

会員の皆様には後日詳細を郵送いたします。HPへの掲載も行います。

・ギャラリートーク：6月1日(土) 13:30～14:00

「チャリティーバザー」同時開催

第57回創作手工芸展に於いてチャリティーバザーを開催いたしますので、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

●令和5年度下期資格審査のお知らせ (普通科・高等科審査のみ行います)

令和5年11月13日(月) 審査、11月10日(金) 申請申込み締切日

●令和5年度資格免状取得者 (令和5年度上期)

資格名	資格者氏名	科目	資格名	資格者氏名	科目
助教授	福留 理恵子	英国刺繍	講師	加藤 育代	フラワーデザイン・シェーネアルバイテン
高等科	城 京子	フラワーデザイン			

●資格を取得して、ステップアップしてみましょう

当連合会では、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育の一環として資格認定・免状授与を行っております。

資格取得は、普通科、高等科 (同時取得可) → 1年研修 → 講師資格 → 2年研修 → 助教授資格 → 2年研修 → 教授資格が得られます。取得後は、指導者として様々な手工芸教育の場で広く活躍できる可能性が待っています。

貴女もチャレンジして一生の宝を見つけてみましょう。

●新教室開設(敬称略)

猪股教室 (令和5年7月) 教室長 猪股 洋子 (岡山県)

●新入会員紹介 (令和4年10月～令和5年9月、敬称略、14名)

加藤 育代 (東京都) 宮崎 祐美子 (埼玉県) 井上 小百合 (埼玉県) 有賀 萬里子 (東京都)
佐藤 好子 (神奈川県) 佐々木 直子 (北海道) 伊東 和子 (東京都) 小松 柊子 (秋田県)
中村 禮子 (青森県) 羽瀬 球江 (東京都) 森岡 加代 (埼玉県) 内藤 恵子 (東京都)
高橋 良子 (東京都) 中西 啓子 (千葉県)

●理事の紹介 令和5年度の役員はホームページに公表しています。

学校法人大妻学院常任理事 鈴木 勉 (令和5年6月就任)

●令和5年度ご寄附者 2023年4～9月 (50音順・上:団体/下:個人、カッコ内は寄附金口数;5千円単位)

第56回創作手工芸展チャリティー有志 (10)

井上美沙子様 (13)、海老澤光夫様 (2)、小俣葉子様・坂爪喜恵子様・池田節子様 (1)

(ご芳志をいただきまして厚く御礼申し上げます)

●次回発刊予定のご案内

次回 SOUSAKU 210号 (創作手工芸) の発刊は令和6年10月を予定しております。

●表紙作品：黄昏時を待つ (津軽こぎん刺し) 田村 まゆみ

編集後記

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これからもご支援のほどお願い申し上げます。

発行日/2023年10月吉日

発行/公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp

URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/